

みずほ、新興や社員提案に投資 100億円ファンド

2023/03/30 20:30 日本経済新聞電子版 439文字

みずほフィナンシャルグループ（F G）は4月に100%出資のコーポレートベンチャーキャピタル（C V C）を立ち上げる。純粋に投資リターンを得るためではなく、みずほの新規事業拡大に役立つスタートアップなどに出資することを主な目的とする。まず100億円規模で運用を始める。

新会社は「みずほイノベーション・フロンティア」。みずほF G内の各部門で将来のビジネス戦略に貢献する可能性があるスタートアップ企業を選んで投資するほか、社員発案の新規事業の提案を具体化するための投資にも使えるようにする。



新会社の社長は池田淳一氏（40）が務める。みずほF Gで歴代最年少社長だ。みずほはデジタル領域などで従来の発想から抜け出せない部分があると問題意識を持っており、これまでも社内で新規事業開発に携わってきた池田氏に柔軟でスピーディーな新規事業の発掘、育成を託す。

銀行法では金融機関の事業会社への出資は原則5%以内に抑える必要があるが、今回のファンドは投資専門子会社となるため、5%を超える出資が可能だ。

許諾番号30093888 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.